

タイトル 「事例発表Ⅰ」

学校名 座間総合高等学校PTA

研究テーマ 「令和のPTAとは」

1 はじめに

《座間総合高等学校》

神奈川県立座間総合高等学校は、2009年(平成21年)に栗原高校とひばりが丘高校の統合により誕生した、県央地区初の総合学科高校です。全日制・単位制を採用し、生徒一人ひとりの個性や進路に応じた柔軟な学びを提供しています。教育の柱として「キャリア教育」と「国際理解教育」を掲げ、3年間を通じたキャリアプログラムや、多文化共生を目指した国際的な取り組みを展開しています。

また、学問や職業のつながりを意識した4つの系列に基づく多彩な選択科目を設けており、生徒は自分の興味や将来の目標に合わせて時間割を組むことができます。少人数教育にも力を入れており、入学時は30人編成のホームルームで、教員によるきめ細かな指導が行われます。2・3年次でも多くの科目で少人数授業を実施し、生徒の学びを丁寧を支えています。

《校章》

座間市の花であるひまわり色の円の内側に、座間市を表す「Z」と地球を置いています。また、左右には、教育活動の柱である「国際理解教育」と「キャリア教育」を表す二つの星を置いています。



2 PTA活動紹介

座間総合高等学校PTAの構成ならびに活動は次の表のとおりです。

本部	学校との連絡・調整、運営委員会の開催、委員会に無い事業
年次地域委員会	文化祭出店、スポーツ大会での豚汁、環境整備事業(年1回)
成人委員会	文化祭出店、成人講座事業
広報委員会	広報誌「The 創」の発行(年2回)
指名委員会	文化祭出店(本部と協力)、次年度役員の調査、依頼

各委員会に振り当てられていない事業に関しては、本部が主導となり、役員全員に協力の依頼を掛け、PTA全体で運営をしております。

3 研究発表「令和のPTA」について

背景

PTA活動には、その時代ごとに異なる課題が存在します。令和に入ってから「任意加入制度」に伴う退会者や未加入者の増加が大きな問題となっています。その結果、全国各地で会員数の減少が進み、PTAの運営が困難となり、他校においては解散に至る事例も報告されています。

現状と課題

本校においても、同様の課題が将来的に起こり得る状況にあります。特に、従来から続いてきた「昭和型PTA」と呼ばれる、引き継ぎ主体の古い運営スタイルが現在の保護者の意識や環境にそぐわず、受け入れられにくいことが明らかになっ

てきました。昭和の時代に作られた仕組みや慣習の一部は、現代社会に適合しない部分があり、その見直しが求められています。

本校の取り組み

このような状況を踏まえ、本校では今年度よりPTA運営の方法と活動内容の見直しを進めています。協議を重ねながら、すぐに実行可能な部分から改善に着手し、保護者にとって「このPTAなら加入したい」と思える組織を目指しています。

発表内容

本発表では、

1. 現状における課題の詳細
2. すでに取り組みを開始した改善策
3. まだ解決に至っていない課題

について報告し、今後の方向性を皆様と共有したいと考えております。

4 まとめ

令和のPTA運営には、さまざまな問題があると思います。そうした問題を解決していくためには、まずPTAの目的が「子どものための活動」であることを改めて認識することが大切だと感じました。そして、その活動を実際に担っているのは、今の時代の会員である保護者や教職員であることも忘れてはなりません。だからこそ、昭和からの慣習をそのまま続けるのではなく、令和の時代にふさわしい運営方法を検討していくことが重要であると考えております。